





正午近く、いよいよ滑走スタート。この瞬間、最初の滑り出しはいつも緊張する。まだまだチキン野郎である。出だしの急傾斜でビビってしまうと、その後、腰が引けてなかなか姿勢を立て直せないのだ。そうなるとう板を制御出来なくなってしまう。

上の方は新雪も少し積もっていて結構軽くいい雪質。先に滑り出した田中さんに続いて恐る恐る続く。本当はここで上手い人がやるように、ホーイ、ホーイ、とか叫びながら滑りたいのだがもちろんそんな余裕はない。自分で板にワックスを塗ってきたので滑りすぎたら？怖いなと思っていたが、滑ってみると以外と見た目より雪は重い。適度にブレーキが掛かるので急傾斜のターンや木立を抜けるのもそれほど怖くはない。雪は下るにつれ段々と重くなっていき志満さんはちょっと不満そう。登ってくる時はかなりいい雪質に思えたのだが滑ってみないと分からないものである。昨シーズンの自分ではこんな樹林帯の中をスキーで滑るのは無理だっただろう。やはり練習も道具も大事だなあと実感（しかし、未だにターンがどういう構造で曲がるの

かサッパリ分からない)。樹林の中をスイスイと（ちょっとドタバタ）抜けて滑るのは超気持ちいい。記録を見ると、通常は登ってきたルートの北側斜面を滑り下るようだが、登りルートの斜面の方がいい感じだし滑りやすいんじゃない？ってことで同ルートを下ることに登る途中で決まっていた。しかし、田中さんは板を新調して数年ぶりに山スキーを再開したので、ノリノリでやる気満々。滑り出したら、も・う・ど・う・に・も・止・ま・ら・な・い・よって感じであつという間に見えなくなって北側斜面に滑り込んで行ってしまった。志満さんが止まるように相当叫んだらしいが全く聞こえなかったらしい。しばらくしてやっと志満さんが追いついたときにはもうルートの修正は無理な所まで来てしまっていた。暴走スキーヤー田中の誕生である。リーダー志満さんは珍しく、激おこポンポン丸（注：ギャル語。さらに怒ってる時は、ムカ着火ファイヤーと言う）である。平謝りの田中さんとの珍しい光景を見られた新井は密かにかなりウケていたのだった。その後は結構ヤセ尾根な感じの場所も出てきて、やはり登ったルートの方が滑り易かったかも。でも何事もなく終了。

下山後は明日の神奈山に備えて妙高方面へ移動した。とてもいい経験になったし楽しかったです。